

14 極早生大粒無核ブドウ品種‘あづましく’の育成

福島県樹試験場 栽培部
平成8年～平成12年度試験研究成績書
分類コード 04—01—01000000

部門名 果樹—ブドウ—品種
担当者 佐藤守、岡田初彦、小野勇治

I 新技術の解説

1 要旨

- (1) ‘あづましく(ブドウ福島1号)’はブラックオリーブ(♀)×4xヒムロット(♂)の交雑実生から選抜された品種であり、2001年3月付けで種苗法に基づく品種登録を申請している。
- (2) 4倍体無核品種で樹勢は強い。発芽期は「巨峰」と同じ、開花期は「巨峰」より2日早い。新梢の発芽と初期生育は「巨峰」より斉一である。果軸が極めて太く、開花時に花穂の下部がエビ状に湾曲する花穂が混じる。耐寒性及びうどんこ病、べと病、黒とう病に対する病害抵抗性は「巨峰」より強いが、灰色かび病に対しては「巨峰」と同等の中程度である。
- (3) 熟期は8月上中旬で成熟日数は60日程度で極早生種の「ヒムロット」及び早生種「デラウエア」より5日から7日早く、中生種の「巨峰」より20日から30日早い。収穫期間は10日から14日。
- (4) 果粒重は7g前後にとどまるが、満開後10日頃のGA(25～50ppm)1回処理で11～15gと大粒となる。果皮色は黒で粒形は円。食味は酸が少なく甘味である。糖度は16～17%、pHは3.3～3.4。皮離れは容易。香気はフokシー、稀に未退化小種子が1個入る場合がある。裂果は極めて少ない。脱粒性は収穫後5日間(室温)は認められない。

2 期待される効果

本品種は、8月上旬に収穫できる4倍体無核品種であり、ジベレリン1回処理により、「巨峰」に匹敵する大粒果となる極早生品種である。特にお盆前に出荷できることから、これまで関東以西の加温ハウス栽培の「巨峰」が主流となっていたこの時期のブドウ販売において、コスト面からも経営上極めて有利な品種として期待できる。

3 適用範囲 県内平坦部

4 普及上の留意点

- (1) 花穂整形の時期は満開後4日までが限界であり、これより遅れると幼果間の競合により花振るい性が強くなる。花穂の形状に応じて、中段の密着した部分を利用する。着粒段数は10～15段とし、着粒数は40～45粒を目安とする。
- (2) ジベレリン処理時期は満開後7日～10日、濃度は50ppmとする。
- (3) 収穫時期は、糖度16%、pH3.3を目安とする。

II 具体的データ等

表1 ‘ブドウ福島1号’と対照品種の発育及び果実品質

品種名	年度	満開日	調査日	GA	果房重	粒数	平均	最大	RM	pH	全酸	成熟
			収穫日	処理日			果粒重	10粒重	示度		mg/ml	日数
					g		g	g	%			日
1号	1999	6.05	8.19	+9	498	85	13.9	150.0	16.4	3.4	-	75
	2000	6.11	8.09	+9	481	45	10.4	117.2	16.4	3.4	5.8	59
ヒムロット	1999	6.09	8.12	+9	365	88	4.1	56.2	15.5	3.4	-	70
	2000	6.11	8.09	+9	279	-	-	60.0	15.0	3.3	7.0	59
巨峰	1999	6.05	9.09	-2,+9	468	81	14.7	172.7	16.3	3.5	-	86
	2000	6.13	9.06	-5,+7	471	45	10.2	125.3	18.1	3.5	8.3	85

注：GA処理は満開日起算、処理濃度は巨峰 25ppm、ヒムロット 100ppm、他は 50ppm

表2 花穂形態及び孔辺細胞長の品種間比較調査（2000年）

品種名	花穂長	花穂数	穂軸太さ	穂軸長	孔辺細胞長	花粉発芽率
	cm		mm	mm	μm	%
1号	16.9 c	2.3 a	4.4 a	15.7 b	37.3 a	24.6
4Xヒムロット	11.1 b	1.1 b	3.3 b	21.5 ab	38.4 a	-
ヒムロット	22.4 a	1.9 a	3.2 b	25.2 a	28.6 b	25.4
ブラックオリンピア	19.7 a	2.4 a	3.3 b	16.4 b	39.4 a	-
巨峰	21.9 a	3.1 c	3.3 b	22.3 a	39.8 a	31.2
分散分析	**	**	**	**	**	-

注：調査日 花穂形態、花粉発芽率 6.10 孔辺細胞長 6.2～6.6

孔辺細胞調査は 12 細胞/葉を 5 葉を調査、多重比較はチューキーの検定

表3 早生種との成熟期比較（2000年8月9日現在の果実品質）

品種	pH	RM示度	10粒重	クエン酸	酒石酸	リンゴ酸	全酸
		%	g	mg/ml	mg/ml	mg/ml	mg/ml
デラウェア	3.3	13.5 a	17.0 a	0.06	6.6 a	2.3	9.0 a
ヒムロット	3.3	15.0 b	56.0 b	0.07	5.4 b	1.5	7.0 ab
福島1号	3.4	16.6 c	127.0 c	0.06	4.8 b	1.8	6.6 b
分散分析	△	**	**	N.S.	**	N.S.	**

注：各 3 果房を調査 10 粒重は大きい方から 10 果粒

全酸=クエン酸+酒石酸+リンゴ酸。多重比較はチューキーの検定

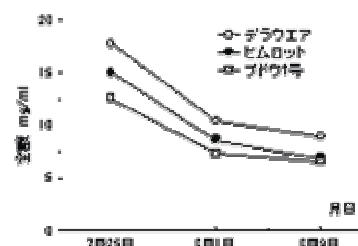


図1 全酸の経時的推移

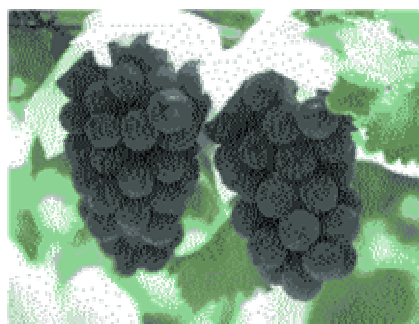


図2 ブドウ福島1号(GA50ppm処理)

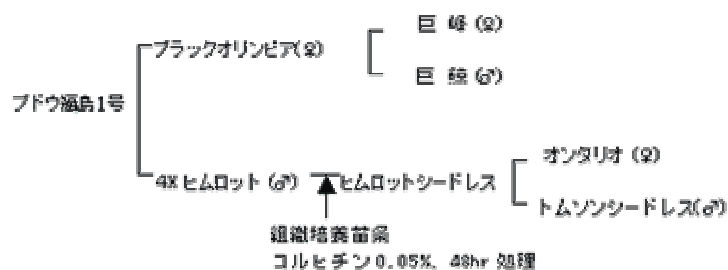


図3 ブドウ福島1号の育成系統図

III その他

(1) 執筆者：佐藤 守・沢田吉男

(2) 主要な参考文献・資料：平成8年～平成12年度試験研究成績書、園芸学会雑誌第70巻1